

遠隔治療半年で症状が大幅に改善。

完治へ向かわれている方の手記

「自分の免疫を信じて（潰瘍性大腸炎途中経過）」

匿名希望 54歳

2015年9月26日

松本医院に通い始め、半年が過ぎました。
漢方薬を煎じる事が、私の一日の始まりになっています。

私の症状は、2012年10月ぐらいから、便を出す時に肛門の上あたりが時々痛み、便は普通便だったのでそのままにしていました。11月ぐらいから便を出す時、先にガスと一緒に赤茶っぽい粘液が出ていましたが、便は依然として普通便でした。便を出す時に毎日続く粘液が心配で2013年2月に病院に行き、大腸検査を受けた結果、潰瘍性大腸炎と診断されました。すぐにアサコール朝夕2錠、ミオD朝夕2錠を処方され、2日で粘液が出なくなり、すごく嬉しかった思い出があります。

それから3か月ぐらいはキッチリ薬を飲んでいましたが、ある日、このまま薬をずっと飲み続けることに抵抗を感じ、飲まずに過ごすようになりました。

その間、2か月ごとに病院へ行きましたが、血液検査をしてもらっても「異常なし」で、先生には「薬がよく効いているね」と言われていました。毎回、処方された薬は飲まずにいました。その間は便も体調もよく、治らないと言われていた難病が治ったと思っていました。

しかし、2014年6月頃から、また粘液が便の前に出る症状が出て、また自分の判断で、まだ残っていた薬を飲んだりしていました。しかし、改善されないで病院に行き、今まで薬を飲んでいなかったことなどを言うと、先生に「ダメですよ、再燃していますよ」と言われました。

「やはりこの病気は難病だ」と改めて思い、その日からキッチリ飲もうと思ひ、処方された通り（ひどい症状の時は、1日1回ペンタサ坐剤を1週間続け、アサコール朝夕3錠、ミオD朝夕2錠）にしていますが、良くなったり、悪くなったりでなかなか改善されず、このままどうなるのだろうと思っていました。薬を飲んでも改善しないのなら、薬を毎日飲まずにひどい時だけ飲もうと、また自己判断でやっていました。

月日がたち2015年2月ごろから症状も落ち着いてきて、このまま一生、改善と再燃を繰り返して、だんだん悪くなって手術するのだろうかと思い、毎日暗い気持ちで過ごしていました。

ある日、インターネットで、松本医院の事を知り、先生の「潰瘍性大腸炎は治る」という内容の論文、投稿されていた皆さんの手記を読み、松本医院を受診したいという思いが強くなりました。家族に相談すると賛成してくれ、大阪高槻まで行くことを決めました。

2015年4月、松本医院の門をたたきました。ネットでは初診は家族で来て下さいと書いていたのに、一人で行った事などで診てもらえるか心配でしたが、先生は私の拙い話を聞いた後、「自分の免疫で治る」と言っていたので、先生を信頼し、頑張ってみようと思いました。

※治療には家族の理解とサポートが不可欠ですので、初診時は家族と共に来院することを奨励しています。(松本医院スタッフより)

それからは、毎日、食前食後の表現のしづらい臭いと味のする漢方薬、主人に手伝ってもらいながらのお灸、週に1、2回の漢方風呂に入る生活を過ごしていました。

遠方なので2カ月に1回の通院し、それ以外は2週間ごとに電話診察を受け漢方薬を処方していただいています。

漢方薬を飲み始めて2日目ぐらいから、松本医院で治療開始する前に出ていた粘液も出なくなり、それから出血は一度もありません。しかし、発病時の普通便から泥のような便に変化したことを少し心配してもしました。

日々変わる私の症状(蕁麻疹がでたり、風邪をひいたり)に合わせて、漢方薬やその他の薬を変えていただき、今は、食前の漢方薬、お灸、週1の漢方風呂だけになり、便も1日1回から2回の普通便に変わり、発病する前の自分に戻り、その頃と同じような生活を送れる事に感謝しています。

また7月に、以前通院していた病院で勧められ大腸検査を行い、1年前にただれていた直腸からS字結腸の間が跡形みたいになっていて、「薬を飲んでないのに、よくなってきていますね」と言われ、「もう絶対薬に頼りたくない」と思いました。

現在は、完治する過程であられる便秘や、リバウンド、アトピーを楽しみに待っている状態です。この病気はストレスなどで発病するようなので、クヨクヨする性格も少しずつ変えようと努力しています。自分の免疫を信じ、免疫で治すということを信じ、頑張っていこうと思っています。